



## あなたの油圧装置は大丈夫ですか

- 製品の品質のバラツキを無くしたい
- チョコ停や暖機運転を止め生産性を上げたい
- 廃油の量を減らしたい
- 保全費用を減らしたい
- 納期遅れを無くしたい……と考えていませんか？

## 油の中のどんなゴミが害になるのか

油は使っている内に空気中の酸素と反応して油に溶けないスラッジができてきます。スラッジは金属の表面に付着しやすく、糊のように粘いので制御バルブの中に付着して、誤動作の原因となったり、クーラーに付着して熱交換を悪くして油温を上昇させたり、ストレーナーやフィルターを目詰りさせます。

### スラッジの悪影響

- 非バルブの作動不良。
- ポンプが故障する。
- ストレーナーの目詰りによる交換。
- ポンプのキャビテーションが大きくなるさい。
- 油の温度が高くなってきた。
- 暖機運転のロス

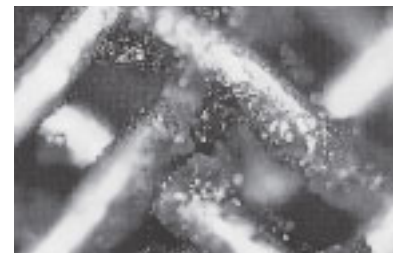
**フィルターでは除去できないスラッジを EDC は除去します！**  
**機械の中はスラッジでこんなになっています**



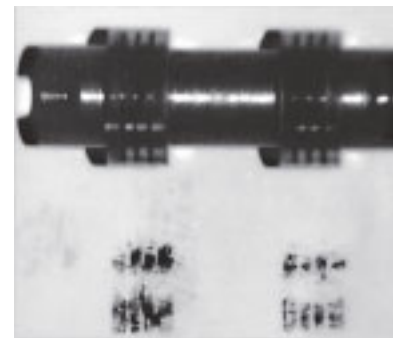
壁面、配管内部に多量に付着している酸化変質物



油圧タンク内部のサクシヨンストレーナー部に大量に付着している酸化変質物



油の酸化変質物スラッジは大変厄介なもの



作動不良が起きたバルブのスポールと付着している酸化変質物

このように油の病原菌ともいわれるスラッジは  
 色々なトラブルの原因となっています。  
 今、機械設備になんの問題がなくても気づいたときには遅いのです。  
 あなたの機械に少しずつ忍び寄っているのです。

静電浄油機は機械の腎臓。  
 油はきちんと管理すれば清浄な状態で長期間使えます。

## 静電浄油機の構造

### ■ 静電浄油機の特長

- 金属、非金属、有機物、無機物種類を問わず油に溶けないすべてのゴミを除去します。
- フィルターでは除去しにくいスラッジを大量に除去します。

#### フィルターとの違い

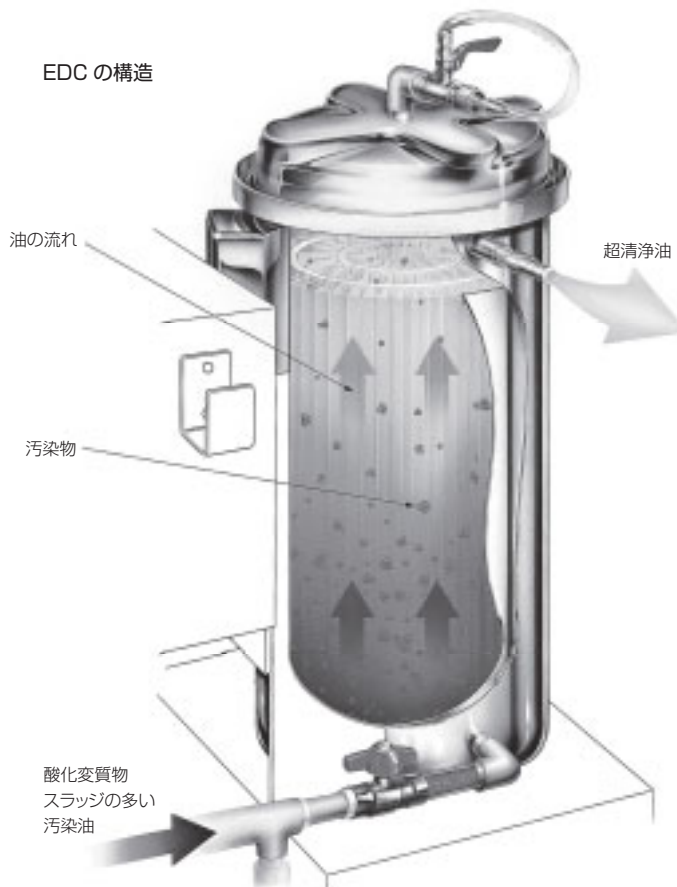
油圧機器の故障の原因を大きく占める恐ろしい汚染物、“油の酸化変質物…スラッジ”。

フィルターでのスラッジ除去は油がフィルターの細孔を通過することからおのずと限界があります。

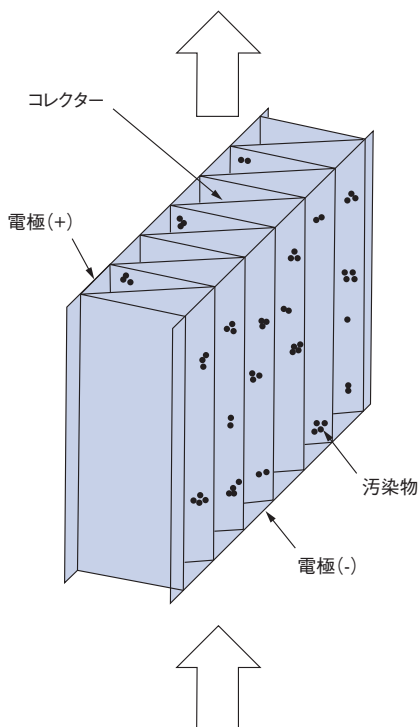
静電浄油機は平行電極に直流の高電圧を印加することにより電極間に電界が生じ電気泳動及び誘電泳動という2つの電気力を発生させてゴミを除去するシステムです。

ゴミを電気的性質で分類すると正か負の帯電体と中性体の3種類しかない油の中のあらゆるゴミを除去します。

EDCの構造



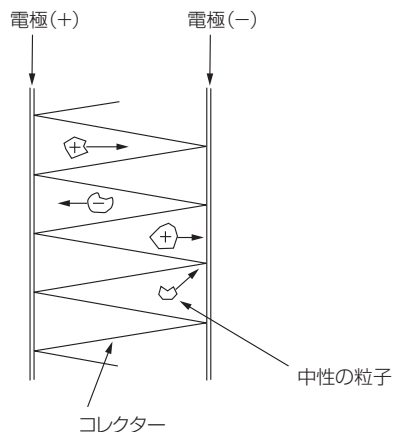
### ■ 静電浄油機の電極とコレクター



帯電したゴミは電気泳動力で反対極性の電極に向かって動いて除去され、中性のゴミは誘電泳動力で電界の強いコレクターと電極の接触部またはコレクターの繊維に引き寄せられて除去されます。

静電浄油機はゴミが電気力でゴミの上にも押しつけられるので、フィルターのような目詰りはありません。

ゴミにかかる電気力



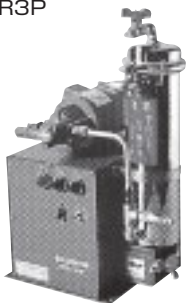


クリーンテック

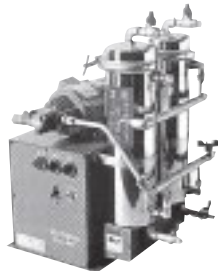
# 静電浄油機

EDCシリーズ

EDC-R3P



EDC-R6P



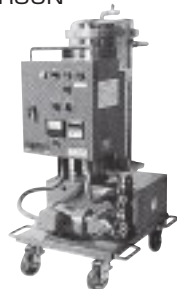
EDC-R10



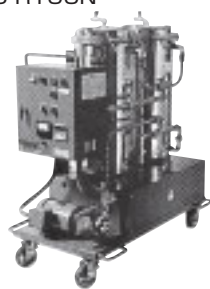
EDC-R25



EDC-R50N



EDC-R100N



EDH-R50N



## 機種選定の目安

型式	寸法 L×W×H(mm)	消費電力(W)	質量(kg)	対象油量(L)
EDC-R3P	255×360× 530	200	19	390
EDC-R6P	325×390× 530	200	27	780
EDC-R10	530×310× 700	200	41	2380
EDC-R25	535×350× 935	300	65	5600
EDC-R50N	570×530×1,065	500	80	11200
EDC-R100N	920×550×1,075	1000	110	22400
EDH-R25 除水装置付き	825×390× 990	300	80	4000
EDH-R50N 除水装置付き	825×725×1,120	500	120	8000
EDH-R100N 除水装置付き	1,050×725×1,120	700	150	10000

◎標準機の電源はAC200V 3相50/60Hzです。380V-440V 3相、100V単相は別価格となります。

◎対象油はエンジンオイルを除く鉱油類で油温：60℃以下、水分500ppm以下、粘度：200mm<sup>2</sup>/s以下です。

◎有機溶剤や難燃性合成作動油用は特別仕様となります。

◎対象油量は粘度がVG46で、汚染混入量や温度が平均的な油圧装置に対する値です。粘度が異なっていたり、汚染混入量や温度が高い場合は機種が異なりますので、まずご相談ください。